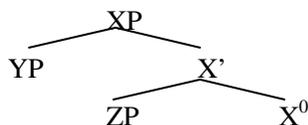


疑問：X⁰=Vの場合だけ、主要部が先行する理由はなにか。

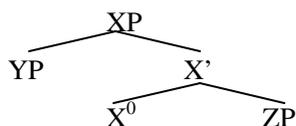
(6) 格理論によるアプローチ(The Chinese Word Order Constraint(Li:1990:11))

- a. Chinese is head-final except under the requirements of Case assignment.
- b. Case is assigned from left to right in Chinese.
- c. A Case assigner assigns at most one Case.

(7) a. 中国語の基本語順: head-final



b. 格付与の方向: left→right



問題：中国語の助動詞文の語順が説明できない。

(8) Iconicity によるアプローチ(James Tai:1985, cf. 嚴 1997)

中国語の文法単位の連続は事象発生の時間順に従う。

(9) a. Xia yu le. 雨が降った。

 下雨了

 b. Yu ting le. 雨が止んだ。

 雨停了

(9') a. ?Yu xia le.

 雨下了

 b. ?Ting yu le.

 停雨了

この仮説では、(9a)と(9b)の語順は外界の出来事の時間順を倣ってできたものであると説明することができる。「雨降り」という出来事は、「降るという変化>雨の存在」という時間順で発生しているが、「雨やみ」という出来事は、「雨の存在>止むという変化」という時

間順で発生している。

問題：「雨が降る」と同様な事象にもつぎの2通りの語順が許されるのはなぜか。

(10) a. Zhao huo le. 火が出た。

着 火 了

b. Huo zhao le. 同上。

火 着 了

出来事の発生の時間順ではなく、話者が事件に対する捉え方の問題である。

1-3. 本研究の目的

(11) 提案(cf. Li:1990)

a. 中国語の語順は事象構造の要求を除けば、head-final である。

b. 事象形成規則：焦点化した述語が主要述語として先行する。(cf. Pustejovsky1995)

2. 出現事象とその語順

出現事象とは、ある事物が予期せずに出現することを指す。描写より驚きを表す。

(12) a. Zhao huo le 火事だ。

着 火 了

b. Chu shi le 事件だ。

出 事 了

c. Ting dian le 停電だ。

停 電 了

(13) 出現事象：[BECOME[y (not)BE AT-z]]

(Dowty:1979, Levin and Rappaport:1995, Jackendoff:1990, 影山 1996)

2-1. BECOME の焦点化

(14) (A さんが B 宅に火が出てきたのを見て)

a. Zhao huo le 火が出た。

着 火 了

b. ?Huo zhao le 同上。

火 着 了

(15) (A さんがストーブに火をつけている B さんに対して)→BECOME が焦点にならない

a. ?Zhao huo le ma? 火が出てきたか。

着 火 了 嗎

b. Huo zhao le ma? 同上。

火 着 了 嗎

2-2. 非指示的名詞句(張&方 1996)

y は事件に関与する概念を表し、指示性を持たない。

(16) (A さんは三人が死んでいるのを見て)

a. Si ren le! 人が死んだ。

死 人 了

b. ?si sange ren le. 三人が死んだ。

死 三個人 了

Cf. ?(那边)死了三個人。

(17) (A さんは王さんが死んだのを見て)

a. Xiao Wang si le

小 王 死 了

b. *Si Xiao Wang le

死 小 王 了

3. 変化事象とその語順

変化事象とは、あるコントローラー(x)が self-control によって引き起こされる自分自身の変化を指す。

(18) a. Dianxian duan le 電線が切れた。

電線 断 了

b. Zhugan dao le 竿が倒れた。

竹竿 倒 了

(19) 変化事象 : $\overbrace{[x \text{ CONTROL } [\text{BECOME}[y \text{ BE AT-z}]]}$ (cf. 影山 1996)

a. CONTROL はコントローラーと発生事象をとる述語である。

b. y は x と同一または一部であることが意味的連鎖(chain)によって示される。

3-1. コントロール性

BECOME より CONTROL が焦点化している。

(20) a. Dianxian ziji jiu duan le 電線が切れた。

電線 自己就 断 了

b. Zhugan ziji jiu dao le 竿が倒れた。

竹竿 自己就 倒 了

(21) a. ?Ziji jiu zhao huo le. おのずと火がついた。

自己就 着 火 了

b. ?Ziji jiu si ren le. おのずと人が死んだ。

自己就 死 人 了

(22) a. [x 自己就 CONTROL [BECOME[y BE AT-z]]]

b. [?自己就 BECOME[y BE AT-z]]

3-2. y が生起可能かどうか

変化事象における y は指示性を持つ名詞句であるが、特定のではない。

(23) 他動詞と名量詞

a. Xuesheng wen wenti, zhi wen le yige 学生は一個質問しただけだ。

学生 j 問 問題 i 只 問了 一個 i/*j

b. Jingcha da xuesheng yigong da le sange. 学生が一人せきをした。

警察 j 打 学生 i 一共 打了 三個 i/*j

(24) 意志的・生理的自動詞文には名量詞が生起できない

a. ?xuesheng gongzuo le yige 学生が一人就職した。

学生 工作 了 一個

b. ?xuesheng kesou le yige 学生が一人せきをした。

学生 咳嗽 了 一個

(25) 状態変化構文には名量詞が生起できる。

a. Dianxian duan le yigen 電線が一本切れた。

電線 断 了 一根

c. Zhugan dao le yike 竿が一本倒れた。

竹竿 倒 了 一棵

4. 経験事象とその語順

経験とはある経験者が発生事象を体験することを指す。

(26) a. Wangmian diu le qianbao. 王さんは財布を亡くした。

王冕 丢了 钱包

b. Wangmian qisui si le fuqin 王さんは七歳時に父を失った。

王冕 七歳 死 了 父親

(27) 経験事象 : [x EXPERIENCE [BECOME [y (not)BE AT-z]]]

4-1. 経験事象に関する諸事実

事実1 : コントロール性がない。

- (28) a. ?Wangmian ziji jiu diu le qianbao. 王さんはおのずと財布を亡くした。
 王冕 自己就 丢了 钱包
- b. ?Wangmian ziji jiu si le fuqin 王さんはおのずと父を失った。
 王冕 自己 就 死了 父親
- b. [x ?自己就 EXPERIENCE [BECOME [y (not)BE AT-z]]

事実2: 経験者に喪失や被害を蒙る。(cf. 沈:2006)

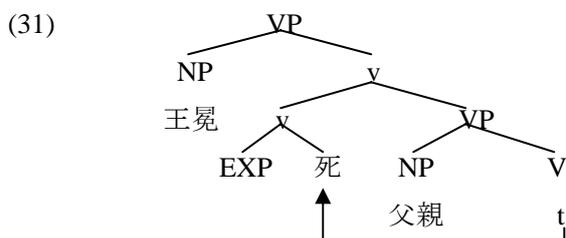
- (29) ?Wangmian qishisui shang si le fuqin. 王さんは七十歳に父に死なれた。
 王冕 七十歳 上 死 了 父親

事実3: 「病気になる」構文には経験者名詞句が生起できない。

- (30) *Wangmian qisui bing le fuqin 王さんは七歳時に父に病気になられてた。
 王冕 七歳 病 了 父親

4-2. 分析

朱(2005)では、(26b)は EXPERIENCE という軽動詞の仮定及び主要部移動によって生成されることが提案されている。



しかし、事実2と事実3について説明できない。そこで、沈(2006)は、(26b)は blending(混成)という認知言語学的手法で生成されていると説明している。すなわち、同じ「なくなる」事象を表す「丟」と「死」では、前者には対応する他動詞があるが、後者にはそれがない。後者の空白を埋めるように、(32b)と(33a)の混成(類推)によって(33b)が生成されたのである。

- (32) a. Wangmian de mouwu diu le. 王さんの何かは亡くなった。
 王冕 的 某物 丢了
- b. Wangmian diu le mouwu. 王さんが何かを亡くした。(被害)
 王冕 丢了 某物
- (33) a. Wangmian de fuqin si le. 王さんの父親が死んだ。
 王冕 的 父親 死了
- b. (Wangmian si le fuqin) 王さんは父を亡くした。(被害)
 王冕 死 了 父親

この説明では、(29)の不適合性が説明できる。すなわち、(32b)構文には被害が含まれるので、混成した(33b)にも被害が含まれるはずである。ところが、(29)にはそれが含まれないがために、不適合である。一方、(30)の非文法性も説明できる。すなわち、「病」に「なくなる」という意味が含まれないから、「丟」と混成しないわけである。

しかし、この提案には混成のメカニズムが示されていないので、検証不可能である。したがって、この発表では(26)の構文は(27)の事象構造で説明できると提案する。

(34) a. 張三丢了錢包。

b. [張三 EXPERIENCE [BECOME [錢包 not BE AT-z]]]

(35) a. 張三死了父親

b. [張三 EXPERIENCE [BECOME [父親 not BE AT-z]]]

この提案では、以上の3つの特徴が説明できる。

(36) a. (26)文では「自己就」が生起できないのは、主要述語が CONTROL ではないから。

b. (26)文の「被害」義は、予期せぬ出現事象を体験することによって生成される。

c. (29) が非文であることは、「病」は出現事象ではなく、経験事象であり、かつ EXPERIENCE は出現事象しかとらないからである。

(37) a. Zhangsan bing le /張三が病にかかった。

張三 病 了

b. [張三 EXPERIENCE [BECOME [y BE AT-病]]]

5. 存現事象とその語順

存現事象とは、ある空間または時間にある出来事が存在することを指す。

(38) 出現事象の存在 : [(x) EXIST [各種の事象]]

a. EXIST は外項と各種の補文を取る述語である。 Cf. Lin2001

b. x は場所・時間である。

5-1. 出現事象の叙述

驚きより叙述的である。すなわち、述語 EXIST が焦点化される。

(39) [x EXIST [BECOME[y BE AT-z]]]

(40) a. Zuotian xia le yichang dayu. /昨日大雨が一回降った。

昨天 下 了 一場 大雨

b. Jingdu chu le yiqi chehuo. /京都では交通事故が1つ起きた。

京都 出 了 一起 車禍

(41) a. ?Xia le yichang dayu. /大雨が一回降った。

下了一场大雨

b. ?Chu le yiqi chehuo. /殺人事件が起きた。

出了一起車禍

5-2. 未知の情報を導入する

中国語では外項(x)は既知の情報でなければならない.(cf. Li and Thompson1981)

(42) a. ?Yige xuesheng bing le. 一人の学生が病気になった。

一個 学生 病了

b. [x EXPERIENCE [BECOME [y BE AT-病]]

(43) a. ?Ren da le Zhangsan. 誰かが張三をぶった。

人 打了 張三

b. [x ACT ON y]

EXIST は未知の x すなわち y を導入する述語である。

(42') a. You yige xuesheng bing le. 一人の学生が病気になった。

有 一個 学生 病了

b. [EXIST [y1 EXPERIENCE [BECOME [y2 BE AT-病]]

(43') a. You ren da le Zhangsan. 同上。

有 人 打了 張三

b. [EXIST [y1 ACT ON y2]]

6. 中国語の語順と日本語の語順

非対格仮説はローカルな規則である。

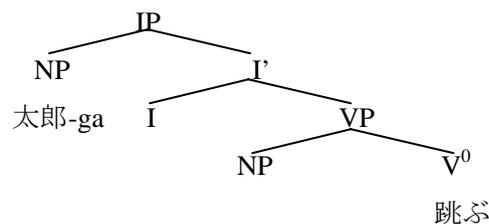
(44) 非対格性の仮説 : Perlmutter(1978)、Zubizarreta(1985)

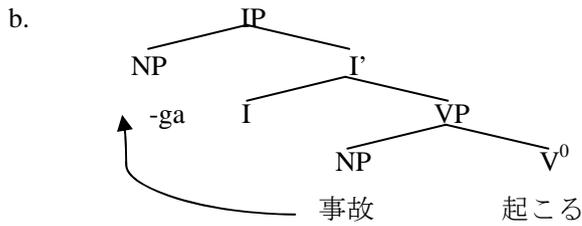
対格言語において、1項動詞は外項をとる非能格動詞と、内項をとる非対格動詞に区別され、さらに、外項は IP の指定部に生起するが、内項は VP の補部の位置に生起する。のちに、非対格動詞の内項が主格を付与されるために、指定部の位置へ移動する。

(45) a. 太郎が跳ぶ。

b. 事故が起こる。

(46) a.





しかし、他動詞なら内項に対格を付与することができるのに対して、非対格動詞は対格を与えることができないのはなぜかという問題がある。

(47) Burzio(1986)の一般化

主語に意味役割を付与できる動詞のみが、目的語に対格を付与することができる。

この仮説は日本語には説明力があるが、中国語には説明力がない。すなわち、中国語の出現事象構文の唯一の項がなぜ目的語の位置に現れるかについて説明できない。さらに、EXIST 構文(42')(43')についても説明できない。

結局、中国語の語順と日本語の語順はそれぞれ何によって決められているのだろうか。本発表では、統語規則に依存する言語と意味構造に依存する言語に分かれ、日本語が前者であり、中国語が後者であると指摘する。

(48) 中国語と日本語の共通点

- a. 中国語の語順と日本語の語順はデフォルトとして **head-final** である。
- b. 以上観察した 4 つの事象構造は日本語にも存在する。(cf. 影山 1996)

(49) 中国語と日本語の相違点

- a. 日本語の語順は事象構造によって規定されない。
- d. 中国語の語順は事象構造によって規定される。

(50) 相違点の理由

中国語は無格言語であるのに対して、日本語は対格言語であることに帰することができると考えられる。

参考文献

- Dowty, David (1979) *Word meaning and Montague grammar*. Dordrecht: Reidel.
- Greenberg J. 1966. "Some Universals of Grammar with Particular Reference to the Order of Meaningful Elements," in J. Greenberg (ed.), *Universals of Language*, The MIT Press, 73-113.
- Hale, Kenneth, and Samuel J. Keyser. (1993) On argument structure and the lexical

- expression of syntactic relations. In *The view from building 20: Essays in linguistics in honor of Sylvain Bromberger*, eds. Kenneth Hale and Samuel J. Keyser, 51-109. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Huang, C.-T. James. (1982) *Logical Relations in Chinese and the Theory of Grammar*. PhD dissertation, MIT.
- Huang, C.-T. James. (1997) On lexical structure and syntactic projection. *Chinese Languages and Linguistics* 3: 45-89. Taipei: Academia Sinica.
- Jackendoff, R. (1990) *Semantic Structures*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- 影山太郎 (1993) 《文法と語形成[Grammar and word formation]》, 東京: ひつじ書房.
- 影山太郎 (1996) 《動詞意味論[Verbal semantics]》, 東京: くろしお出版.
- Levin, Beth and Malka Rappaport Hovav. (1995) *Unaccusativity*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Li, C. N. and S. A. Thompson. 1981. *Mandarin Chinese--A Functional Reference Grammar*. University of California Press.
- Lin, Tzong-Hong (2001) Light verb syntax and the theory of phrase structure. Doctoral dissertation, University of California, Irvine.
- Li, Y.-H. Audrey (1990) Word order and constituency in Mandarin Chinese, Kluwer Academic Publishers.
- Pan, Haihua (1996) Imperfective aspect zhe, agent deletion, and locative inversion in Mandarin Chinese, *Natural Language and Linguistic Theory*, 14: 4-9-432.
- Pustejovsky, James. (1995) *The Generative Lexicon*. Cambridge, Mass.:MIT Press.
- Saito, Mamoru and Hiroto Hoshi (1998) Control in complex predicates. *Project report of Typology of languages and culture: East and West: 15-46*. University of Tsukuba.
- 沈家煊. (2006) 「“王冕死了父親”的生成方式—兼說漢語“柔合”造句」『中国語文』, 北京.
- 沈力. (2003) 「漢語的直陳語態範疇」, 『語法研究與探索(12)』, 商務印書館, 北京.
- Shen, Li (2004) Aspect Agreement and Light Verbs in Chinese: A Comparison with Japanese,” *Journal of East Asian Linguistics, Vol. 13, No.2*, Kluwer Academic Publishers.
- 宋玉柱(1982) 「定心謂語存在句」, 『語言教學與研究』, 第3期, 27-34.
- Tai, James. (1985) Temporal sequence and Chinese word order. Haiman (ed) *Iconicity in Syntax*. Benjamin's, Amsterdam.
- Vendler, Zeno (1967) *Linguistics in philosophy*. Ithaca: Cornell University Press.
- 巖辰松. (1997) 「語言臨摹性概說」『国外語言學』第3期, 21-25.
- 張伯江・方梅 (1996) 『漢語功能語法研究』, 江西教育出版社.
- 朱行帆. (2005) 「輕動詞和漢語不及物動詞帶賓語現象」, 『現代外語』第3期, 北京.